

平成28年度包括外部監査報告に対する措置等対応状況(平成30年度継続調査, 意見)

管理番号	監査対象/テーマ	指摘/意見	指摘/意見の観点	項目	主な内容	所管課	・改善の状況 ・意見を受けての考え方, 対応状況	措置等対応状況の区分
4	保健予防課	意見	有効性	難病対策地域協議会の設置に向けての検討	<p>【現状及び課題】 難病法第32条において、努力義務ではあるものの、難病対策地域協議会の設置が示されている。また、「難病の患者に対する医療等の総合的な推進を図るための基本的な方針」(平成27年9月15日厚生労働省告示第375号)においても、「早期に難病対策地域協議会を設置するよう努める」としているが、柏市においては同協議会が設置されていない。</p> <p>【改善提案】 まずは、各種関連団体から意見聴取を行うなど難病対策地域協議会の設置に向けての検討を進めるべきである。難病の患者や家族、関係機関や団体、医療・福祉・教育・雇用の関連職種その他により、情報の共有と緊密な連携を図ることで、積極的に難病患者の支援体制を整備していくことが望まれる。これにより、難病相談支援や助成対象者の全体数把握のみならず、災害時におけるガイドライン作成をふくむ在宅難病患者の要援助者の把握、広報による活動状況報告など、支援体制の拡大に繋がることが期待される。</p>	保健予防課	<p>難病支援体制の構築には、関係機関との情報共有と連携は重要であり、連携強化を戦略的に進めてまいります。 平成31年3月には柏市難病ガイドブック作成検討会議を実施し、医療・介護・福祉・行政の関係者間で、難病支援体制のあり方と課題の明確化、共有化を図りました。平成31年に開催される第2回検討会議を踏まえて「柏市難病ガイドブック(仮称)」を完成させ、今後の難病支援に活用する予定です。このような連携の機会を通じて、柏市に適した難病支援のあるべき姿や、難病対策地域協議会のあり方等の検討を重ねていきます。</p>	検討中
5	保健予防課	意見	経済性・効率性	指定難病に係る特定医療費受給者証の更新手続等に関する事務処理の外部委託	<p>【現状及び課題】 毎年6月から9月末にかけて指定難病に係る特定医療費受給者証の更新手続業務が集中する期間において、保健予防課では、臨時の事務職員3～4名を動員して、3,000件程度の申請書類を処理している。書類の種類も数も多く、ウェルネス柏内の会議室など事務処理する場所すら確保できない状態である。指定難病は拡大傾向にあり、作業量の増大も懸念される。</p> <p>【改善提案】 事務処理業務フローが確立し、業務を定型化できる状況になった段階で、費用対効果を鑑みて、外部委託を検討されたい。</p>	保健予防課	<p>平成30年度から更新申請手続きの様式や必要書類等が改良され、作業内容が変更されましたが、現在、マイナンバーによる情報連携の実施について千葉県で検討を継続しております。また、本市においても市民の負担軽減と事務の効率を図るため新規申請時の住民票や税証明の省略について、平成31年度中の実施検討しているところであり、事務処理フローの確立と定例化には、今しばらく時間を要する状況であります。 このことから今後、事務処理の定型化できた際には、改めて作業量や作業内容を考慮し、費用対効果も鑑みながら、委託化を含めより良い業務環境の整備を検討します。</p>	検討中
9	動物愛護ふれあいセンター	意見	経済性・効率性	畜犬登録の鑑札・狂犬病予防注射済票の交付等事務の外部委託等	<p>【現状及び課題】 手数料収納事務を含む畜犬登録の鑑札・狂犬病予防注射済票の交付事務は、動物愛護ふれあいセンター、沼南支所、ウェルネス柏で行われている。交付等事務のために、沼南支所では支所職員が対応しているが、ウェルネス柏では、他課職員が対応できないため、センターの正職員1名が交代で赴いて専属で対応している。飼い主の便宜に資するとはいえ、動物愛護ふれあいセンターとウェルネス柏との2箇所にて交付等事務に正職員が割かれる状況である。</p> <p>【改善提案】 動物病院やペットショップが、飼い主から代行手数料を徴収したうえで、飼い主に代わって畜犬登録申請や予防注射済票交付申請をするケースもある。この実情を鑑みると、現状の非効率を解消するためには、畜犬登録の鑑札・狂犬病予防注射済票の交付等事務を動物病院等に外部委託することが望ましい。</p>	動物愛護ふれあいセンター	<p>市民の利便性向上及び登録頭数の増加並びに事務の効率化を目的とし、畜犬登録に伴う鑑札及び狂犬病予防注射済票の交付並びにこれら手数料収納事務を、動物病院へ委託することを前提に、受託可能な事業所(動物病院)の選定及び適切な委託料金の設定について検討を重ねており、令和3年度からの委託化を目指し準備を進めています。 一方で、当該事務は動物病院のみで完結するものではないことから、引き続きウェルネス柏及び動物愛護ふれあいセンター並びに沼南支所においても、交付及び手数料収納事務を継続します。但し、ウェルネス柏では、平成31年度から臨時職員1名の常駐体制を止め、動物病院とは異なる窓口受付業務専門の民間事業者へ事務を委託し、経費削減に努めます。</p>	措置等を講じた

平成28年度包括外部監査報告に対する措置等対応状況(平成30年度継続調査, 意見)

管理番号	監査対象/テーマ	指摘/意見	指摘/意見の観点	項目	主な内容	所管課	・改善の状況 ・意見を受けての考え方, 対応状況	措置等対応状況の区分
10	動物愛護ふれあいセンター	意見	有効性	狂犬病対応ガイドラインの策定	<p>【現状及び課題】 『狂犬病対応ガイドライン2013ー日本国内において狂犬病を発症した犬が認められた場合の危機管理対応ー』（厚生労働省公表）において「各々の都道府県等にあっては、それぞれの状況に応じて、本ガイドラインにもとづいての独自のガイドラインをあらかじめ策定しておくことこそが必要であると考えている。」としているが、柏市では未策定である。</p> <p>【改善提案】 ガイドライン策定は努力義務であるものの、柏市においても独自のガイドラインの策定が望まれる。 策定にあたっては、有事の際に連携が必要となる千葉県との協力を仰ぎながら、同様の課題を持つ他自治体と情報交換しながら進めることが望ましい。</p>	動物愛護ふれあいセンター	千葉県下保健所設置自治体（千葉県、千葉市、船橋市、柏市）間で協議、検討を行う機会を得た中で、狂犬病の精密検査実施可否自治体が明確となりました。この中で、①スムーズな検査依頼及び検査受け入れ態勢の構築が必要であること、②狂犬病発生時または狂犬病疑い事例発生時の近隣自治体との協力、連携体制の構築が必要であること、③狂犬病対応ガイドライン2013に基づき、各自治体ごとに狂犬病発生時のシミュレーションを重ね、ガイドラインに無い問題点を把握する必要があること、が、各自治体に共通する課題であると認識されました。今後は、これらの事項をも踏まえ、市役所関係部局との連携の下、災害発生時対応マニュアル等を参考に、柏市独自の実践的マニュアルの整備に努めます。	検討中
12	地域健康づくり課	意見	有効性	課題分析について	<p>【現状及び課題】 柏市健康増進計画の課題を解決するためには、20代への施策を立て、それを実行することが不可欠であることが認識されている。 現状は性別、世代別の分析のみとなっており、社会人や学生かなどの生活スタイルの分析を実施していないため、具体的な効果的な施策が立てられていない。</p> <p>【改善提案】 課題をクリアするための重要な世代については、より詳細な分析をし、具体的な施策を立て、実行することが必要である。</p>	健康増進課	柏市健康増進計画の最終評価及び次期計画の策定のため、令和3年度に柏市民健康意識調査を実施する予定です。実施の際は、中間評価での課題の整理も踏まえ、職業等の生活スタイルに関連する項目についても含める方向で調査項目の検討を進め、より具体的な施策の作成に繋がっていきます。	措置等を講じた
28	成人健診課	意見	有効性	沼南保健センターの有効活用	<p>【現状及び課題】 沼南保健センターは成人健診課の事業として年間22日しか利用実績がなく、その他の用途として、内部利用で年間150日の利用がある。現状、公共施設等総合管理計画策定中で、資産関連を取りまとめる資産管理課が沼南保健センターの統廃合について検討を行っているが、成人健診課としては継続して使用する方針とのことである。</p> <p>【改善提案】 現状、柏市では、資産管理課を中心に公共施設等総合管理計画で沼南保健センターの利用方針について検討がされているが、統廃合を含めた全体的な検討をすべきである。</p>	健康増進課	平成31年3月に策定した柏市公共施設等総合管理計画「個別施設再編方針」において、稼働率の低いスペースや未利用なスペースの効果的な活用について検討を行い、耐用年数を迎えた沼南保健センターは廃止し、中央保健センターに集約化していく方向性を示しています。平成31年度は中央公民館の代替施設としても利用することとなっており、当該施設の必要なサービス機能は維持しながら多目的での利用を行うなど、引き続き施設の効果的な活用を行っていきます。	措置等を講じた
30	目標進捗管理	意見	有効性	健康目標指標の分類と指標達成のための取組み主体の明示	<p>【現状及び課題】 柏市健康増進計画において健康目標として掲げられている指標は、「①栄養・食生活」の分野のようにアウトカム（成果）指標がほとんどであるが、「⑦糖尿病」や「⑧循環器疾患」の分野における「柏市国民健康保険特定保健指導の実施率」のようなアウトプット（活動）指標もある。また、アウトカム（成果）指標であって客観的なもの（市民の行動の変化の表れ）ものあれば、個人の主観によるもの（満足度や意識）もあり、さらには、市民の協力等が必要な（柏市や関連機関が実施するだけで達成できるとは限られない）ものもあるが、柏市ではこれらの指標の分類がされていない。 また、市民の協力等が必要な指標について、市民として実施すべき事項や役割分担が示されていない。</p> <p>【改善提案】 より実効性のあるPDCAサイクルを進めるため、健康目標指標を性質ごとに分類するとともに、分類に応じて、市民を含めて取組み主体を明示すべきと考える。</p>	健康増進課	健康目標値の性質ごとの分類及び分類に応じた取組み主体の明示については、健康目標値の見直しを含めて次期計画策定における課題と認識しています。令和4年度に実施する最終評価及び次期計画策定と併せて検討を進めていきます。	検討中